
遊戯王ZEXAL 時代遅れのデュエリスト

ガイウス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王ZEXAL 時代遅れのデュエリスト

【Nコード】

N7187Z

【作者名】

ガイウス

【あらすじ】

エクシーズ召喚とは！ 同じレベルのモンスターを重ねて召喚する新たな召喚方法！ この召喚方法によりデュエルはより戦略的になった！ …この物語はエクシーズが当たり前の時代に時代遅れの召喚方法を使うデュエリストの物語…

第1話 時代遅れの召喚方法（前書き）

ついやってしまった…

既に連載作品あるのに…

第1話 時代遅れの召喚方法

『最新モンスター・エクシーズ インヴェルズ・ローチ！
今なら6000円のお得価格！今なら6せ』

とある部屋で1人の少女…ではなく少年がテレビの電源を切る

彼の容姿は金髪のポニーテールと周りから見れば女の子と間違われ
てもおかしくない容姿である

要するに男の娘である

「インヴェルズ・ローチ かあ…。まあデュエルモンスターズを
やってない僕には関係ないか」

彼の名は相沢聖^{あいざわひじり}

デュエルモンスターズとはなにも縁のない少年がデュエルモンスターズに
関わる事件に巻き込まれる物語である…

視点 聖

- ハートランド カードショップ -

「 グレンザウルス でダイレクトアタック！」

「また負けたあああ!!」

遊馬 LP2000 0

「遊馬君…。またですか」

「モンスター・エクシーズ持っていない俺からしたら グレンザウルス つえーよ!」

「遊馬! グレンザウルスなんてモンスター・エクシーズの中じやあ普通のモンスターだぜ?」

「鉄男!お前はそう言うけど俺はモンスター・エクシーズを持ってないんだよお〜!」

「遊馬…情けない」

「小鳥までかよ〜!」

持っていないから関係とは言ったけど…やっぱりやりたくてついつい来てしまっただよね

でも…お金が7000円しかない

D・ゲイザーとかであつという間にお金が飛んじゃうからカードどころじゃない

カードだってどんなデッキにもはいる サイクロン は1枚1500円

そしてモンスター・エクシーズは一般で量産されている グレンザ
ウルスが2000円

こんなんじゃ弱小カードしか買えない

「…デュエルしたいなあ」

「デュエルがしたい！けどお金が足りないと思ってないかな？」

「うわっ！な、なんですか!？」

僕の背後から若い男性店員が僕を呼んでいた

「俺は神代進^{かみしろすすむ}。」

君が毎日デュエルを見てるだけなのを見てたからどうしたのかわなっ
てね」

「えっと…恥ずかしいんですけど…今年でデュエルしたことなく
て」

周りのみんなはデュエルしてるけど僕だけはしてなかった

まあ原因はお金の問題なんだけど

「どんなド素人でも大丈夫！今ならこのジャンクカードの山が10
0枚につき1000円で取り放題&選り放題！」

そう言いながら進は大きなダンボールを持ってくる

「こんなにも!？」

…でもD・ゲイザーとか無いし…」

「無いの?仕方ない!サービスでD・パッド&D・ゲイザーをタダでプレゼントだ!」

「ほ、本当ですか!？」

なんか都合が良いような気がするけどこの際にしない!

「…ただし!条件がある!」

「条件?」

…やっぱりなにかあった

「今度この店に展示される インヴェルズ・ローチ を手に入れたらタダであげるよ!」

「 インヴェルズ・ローチ を?」

ジャンクカードと インヴェルズ・ローチ を合わせると…合計7000円だ

「お金足りるし…普通に機材揃える方がお金かかるから丁度いいや」

「決まりだね。じゃあジャンクカードから100枚選んでよ!」

「選んでよ!」って言われても…

めちゃくちゃあるから探すだけで骨が折れそう…

「進さん!!」

「遊馬君。どうしたんだい？」

あの特徴的な髪型の男の子…遊馬君っていうんだ

…そんなことよりカードカード

「インヴェルズ・ローチ　っていつ展示されるんだ？」

「インヴェルズ・ローチ　なら明日だよ明日」

「…明日あ!?!」

「あっ、ハモった」

明日ってすぐじゃん!

急がないと…!!

「てか進さん?あそこのねーちゃんなにしてるの?」

「いや…僕、男なんだけど」

「ええ!?!その見た目で!?!」

失礼な!

よく間違われてるから慣れたけども！

「男の子だったの？女の子かと思ってたや」

進さんもか…

そんな事を思いながら僕はカードを探す

「てかねーちゃん…じゃなくてにーちゃんさあ？ジャンクカード買
うの？」

「そうだけど？」

「そんな古いカードしかないぜ？
古いカードって弱小カードばっかだし」

「そうなの？この マンジュ・ゴッド は使えると思うけど？」

マンジュ・ゴッド の効果は召喚か反転召喚に成功した時にデッ
キから儀式モンスターまたは儀式魔法1枚を手札に加える効果

ちなみにさっきジャンクカードから3枚見つけたよ

「儀式い？あんなのやるよりエクシーズ召喚した方が早いぜ？」

「鉄男？」

えっそうなの？

でもエクシーズ高いしなあ…ってあれ？

進さんからオーラが…

「鉄男君…。ちょっと裏まで…来る?」

「す、すみませんでした…!」

「あの…儀式について教えてほしいんですが」

「儀式!? 儀式というのは…」

儀式について教えてほしいと進さんに訪ねた瞬間進さんの目が光り
教えてくれた

…10分くらい

「…とこれが儀式の全部だよ」

「は、はあ…」

そうこうしている内に時は過ぎ…

「まあ…こんなものかな?」

「うわぁ…まじで儀式デツキにしたのかよ」

「古いカード…すみません進さん」

「さてと…コレで君のデツキも完成だ。明日から君はデュエリスト
だ!」

…明日 インヴェルズ・ローチ を手に入ればはれて僕はデュエリストに…あれ？

「あの…そういえばあのジャンクカードの中に儀式モンスターが入ってなかったんですけど？」

「……………」

「…無いんですか!？」

「…ごめん。儀式モンスターは自分で探してね」

「そんなぁ……………」

こうして僕のデュエリストとしての道は真っ暗闇に葬られた…

「はぁ…。儀式デッキなのになんで儀式モンスターが無いんだ」

せつかく 高等儀式術 とか 奈落との契約 とか手に入れたのに
…（進さん曰わくオススメカード）

僕が夜道を歩いてると1つのゴミ箱が目に入った

「…ゴミ箱に入ってないかな？」

僕は無意識にゴミ箱を漁り始めた

「… E・HERO エッジマン に ベビートラゴン とかがあ
る…。」

儀式モンスターは…あった！」

なんとという幸運！

しかも同じカードが2枚！

僕はカードをデッキに入れ家に帰って行った…

視点 ?????

「あの子…あのカードを…」

あのカードは…私のお母さんの敵^{かたき}

あのカードだけは…許さない

視点 聖

「うわぁ…いっぱいいるなあ」

「そりゃそうさ。なにせ インヴェルズ・ローチ だからね」

流石は6000円なだけはあるね

「僕はこれから司会をやるから君は頑張って インヴェルズ・ローチ を手に入れてくれ！」

「は、はい！」

大丈夫だろうか…

みんな インヴェルズ・ローチ が欲しいのかめちやくちや殺気たっている

「みんなー！ インヴェルズ・ローチ が欲しいかああ！」

「「「「「おおおお！！」「」「」」」」

す、凄い…

インヴェルズ・ローチ ってそんなに凄いカードなのかな…？

「ではスポットライト…カモン！」

辺りが暗くなりスポットライトの光が映し出される

「このスポットライトに当たった2人が インヴェルズ・ローチ を手に入れる権利を得られる！」

えっ？

商売としてどうなのそれ？

ていうかそれだと僕はどうなるの！？

D・パッドは!?

D・ゲイザーは!?

都合が良すぎるとは思ってたけどコレはあげるあげる詐欺だったのか

…!

そんな事を考えてるとスポットライトの光が止まった

ていつか眩しい…ってスポットライトの光が僕に!?

「よっしゃー!俺にもスポットライトが当たったぜ!」

あれ…遊馬君も?

「スポットライトが当たった2人は前のデュエルフィールドへ!」

僕がデュエルフィールドに向かっているとみんな恨めしそうな視線で睨んでいた

…怖いなあ

「さあ!今から インヴェルズ・ローチ を賭けたデュエルを始めるぞおお!」

…デュエルう!?

「あの…デュエルって?」

「インヴェルズ・ローチ！それは此処にいる選ばれしデュエリストのみが手に入れる事ができるカード！その選ばれしデュエリストを選ぶのに相応しい方法はただ1つ！デュエルだ！」

「…意味が分からないんですけど!？」

「君は今日始めたばかりだから分からないのも仕方ないか。

…これD・パッドとD・ゲイザーね」

進さんがこっそりD・パッドとD・ゲイザーを渡してくれた

…勝たないと手に入らないなら勝つしかないと

「あれ？昨日のね…にーちゃんじゃん？

悪いけど初のエクシースモンスターは俺の物だぜ！」

「遊馬…大丈夫かしら？」

「相手はド素人な上に儀式モンスターが無いから大丈夫だろ…多分」

周りから弱小デュエリストの遊馬とか遊馬の相手はド素人かとか聞こえてくる

…事実だから言い返せない

「さあ！準備はいいかな？

ではデュエルスタート！」

「Dディスクセット」えっと…どうするんですかこれ?」……負け

「たら絶対に恥ずかしいな」

「教えるの忘れてた…」

その後Dディスクのセットなどに2分かかりました…

「今度こそ準備はいいね？」

「はい！（おう！）」「」

「ではデュエル…スタート！」

聖 LP4000 遊馬 LP4000

「先攻はもらうぜ！ドロー！」

「遊馬ー！相手は初心者なんだからねー！」

「わかってるよ！ズババナイトを召喚！」

ズババナイト ATK1600 DFF900

『ズババー！』

黄色い騎士…なのかなアレ？

「そして畏カードを1枚セットしてターン終了だぜ！」

…周りが大笑いしてる

なんで？

「遊馬！魔法・罾ゾーンにセットするカードは言わなくて良いんだよー！」

「あ…そうだった」

そうなんだ…

知らなかったから僕も言ってたかもしれない…

「えっと…僕のターン！ドロー！」

えっと…ズババナイトの攻撃力が1600だから…

「デーモン・ソルジャーを召喚！」

デーモン・ソルジャー ATK1900 DEF1500

「こ、攻撃力1900だって!?!」
凄…!」

今までD・ゲイザー持ってなかったからわからなかったけどソリック
ドビジョンって凄…!」

「あ…もしもし?」

「…っと思とれてる場合じゃないや。」

バトル！ デーモン・ソルジャー で ズババナイト を攻撃！」

デーモン・ソルジャー は ズババナイト を拳で殴り破壊する

「ズババー！」

遊馬 LP4000 3700

「えっと…カードを1枚セットしてターンを終了」

「俺のターン！ドロー！」

ガガガマジシャン を召喚！」

ガガガマジシャン ATK1500 DFF1000

「ガガガー！」

ヤンキーみたいな魔法使いだ…

でも攻撃力1500じゃあ デーモン・ソルジャー は倒せないよ？

「更に手札から装備魔法 ワンダー・ワンド を発動！

ガガガマジシャン に装備するぜ！」

ガガガマジシャン ATK1500 2000

「攻撃力が上がった！？」

「装備魔法はモンスターの能力を上げる効果があるんだぜ！」

ということとは…デーモン・ソルジャーは破壊される！

「バトル！ ガガガマジシャン で デーモン・ソルジャー を攻撃！ガガガマジック！」

ガガガマジシャン は デーモン・ソルジャー を ワンダー・ワンド で殴り倒した

殴るの！？

マジシャンなのに殴るの！？

「更に畏カード発動！ リビングデッドの呼び声 ！」

「リビングデッドの呼び声 ？」

「リビングデッドの呼び声 は墓地からモンスターを攻撃表示で特殊召喚できるんだ。

しかもバトルフェイズだから攻撃が可能だ。しかし…遊馬の奴がこんな事をやれるとはな」

「ズババナイト を攻撃表示で特殊召喚だ！」

『ズババー！』

また ズババナイト が…！

「ズババナイト でダイレクトアタックだ！」

えっと…こういう時は…これかな？

「罨カード発動！ リビングデッドの呼び声！」

「なあ！？お前もかよ！？」

「墓地から デーモン・ソルジャー を攻撃表示で特殊召喚！」

僕の前に再び デーモン・ソルジャー が現れる

「じゃあ手札から速攻魔法 サイクロン を発動！」

「サイクロン ！？」

「サイクロン は速攻魔法！自分のターンなら手札から発動可能な魔法カードだ！」

「たしかリビングデッドの呼び声 は永続罨！

リビングデッドの呼び声 の影響を受けている デーモン・ソルジャー は破壊されちゃうわ！」

そうなの…ってよく見たらカードに書いてるや

…ってそんな場合じゃない！

サイクロン にリビングデッドの呼び声 が破壊され デーモン・ソルジャー が巻き込まれる

「コレでがら空きだ！ズババナイト でダイレクトアタック！」

ズババナイト が聖に接近し大きな剣で切り裂く

「うわぁぁー！」

聖 LP3900 2300

「これでターンを終了！」

どうしよう…！

手札にはモンスターカードと儀式魔法 高等儀式術 しかない…！

「僕のターン！ドロー！」

引いたカードは… 思い出のブランコ！

エンドフェイズ時に自爆してしまうけど墓地から通常モンスターを特殊召喚するカード！

でも復活できるカードは デモン・ソルジャー しかない…！

「このままいけば遊馬の勝ちね！」

「いけ遊馬！初勝利が目の前だぜ！」

「おう！」

このまま…負けちゃうのかな？

手札には逆転できるカードなんて…

・ マンジュ・ゴッド とか使えると思っただけど？

…そういえば手札に マンジュ・ゴッド がいる

たしか マンジュ・ゴッド の効果は儀式モンスターが儀式魔法を手札に加えるモンスター

そして 高等儀式術 は手札の儀式モンスターを選択して選択した儀式モンスターのレベル以上の通常モンスターを墓地に送るカード

…これだ！

「 マンジュ・ゴッド を召喚！」

マンジュ・ゴッド ATK1400 DEF1000

「 マンジュ・ゴッド の効果発動！デッキから儀式モンスターまたは儀式魔法1枚を手札に加える！」

「 儀式？あの使えない召喚方法か」

「 古いカードかよ…だせえ」

「 …デッキからこのカードを手札に加えるね」

ゴミ箱から拾ったカードがどんな効果を持つてるかわからない

だけど…ここで負けるわけにはいかない！

「 手札から 高等儀式術 を発動！」

「高等儀式術…?」

「このカードは手札の儀式モンスターを選択し選択した儀式モンスターのレベルの合計分だけデッキの通常モンスターを墓地に送る事で選択した儀式モンスターを儀式召喚する事ができる!」

「手札消費をしなくてすむ儀式魔法だつて!?」

「僕はデッキからレベル8のゴギガ・ガガギゴを墓地に送る!」

ゴギガ・ガガギゴの魂が巨大な闇を作り出す

「終焉の王 デミス を儀式召喚!」

終焉の王 デミス ATK2400 DEF2000

僕の目の前には巨大な斧を持った悪魔が現れる

「デミス…!なんか強そうだな!」

「レベル8で攻撃力2400?」

「やっぱエクシーズだな。レベル8で攻撃力2400とか…」

「…デミスの効果発動!」

効果は…なにこれ…強いじゃないか!

「ライフを2000ポイント払う事でフィールド上のデミス以外のカードを全て破壊する！」

「…す、全てええええ!!!?」

聖 LP2300 300

デミスは巨大な斧を振りかざす

斧から出た衝撃波がデミス以外のカードを崩し去っていった

「だけどまだライフは残るぜ！」

「いや、このカードで止めだ！手札から 思い出のブランコ を発動！

墓地から通常モンスターを特殊召喚できる！」

「通常モンスターってまさか 高等儀式術 で墓地に送った…！」

「墓地から ゴギガ・ガガギゴ を特殊召喚！」

ゴギガ・ガガギゴ ATK2950 DFF2800

僕の目の前に凶暴で巨大なトカゲが現れる

「バトル！デミスとゴギガ・ガガギゴで止め！」

「うわあああ！」

遊馬 LP3700 - 1650

「デュエル終了！勝者相沢聖！」

「勝った…！」

初めてのデュエルで勝った…！

「負けたああ！…でも楽しかったぜ！」

「うん！またやろうね！」

これで インヴェルズ・ローチ にD・パッドとD・ゲイナーが手に入るぞ！

「はい！これが インヴェルズ・ローチ だ！」

進さんが インヴェルズ・ローチ を僕に渡す

「あの…お金は？」

「はい6000円ね」

僕は進さんにお金を渡した

「あの…進さん？」

「なんだい？」

「…なんで儀式モンスターってだけで叩かれるんですか？」

∴ 第2話に続く

第1話 時代遅れの召喚方法（後書き）

聖「次回予告？…王家と武士と亡霊とだけだと思ってた」

ゴキブ： インヴェルズ・ローチ を手に入れた聖

だが彼は複雑な気持ちになっていた…

「なんで儀式モンスターってだけで叩かれるんですか…？」

第2話 叩かれる理由

お楽しみに！

第2話 叩かれる理由（前書き）

あれ… マンいらなくね？）
については本編で明らかに

第2話 叩かれる理由

視点 聖

「…なんで儀式モンスターってだけで叩かれるんですか？」

儀式モンスター…遊馬君とのデュエルには勝ったけどギャラリーによる儀式モンスター叩きでスッキリしなかった

儀式を使っただけなのに…

「…儀式モンスターは出た当初から叩かれてたんだ。

リリースの数の割に弱いかメインデッキに入れなければいけないから事故の元とか言われてね」

「…それだけで叩かれるなんて…酷すぎます」

なんだろう…初めて使ったデッキが全否定されたみたいだ

「実際儀式魔法を使ってまで出しても攻撃力が低いのが多かったんだ。

まあ儀式モンスターの中にも サクリファイス やリチュアシリーズなどの有能モンスターがいるんだけどね」

「それなら何故！」

「時代の流れかな…。モンスター・エクシーズが出てからただでさ

え冷遇されていた儀式モンスターはみんなから嫌われるようになった。

「俺もモンスター・エクシーズが嫌いな訳じゃないけど…少し悲しいかな」

時代の流れ…か

…でも僕は！

「僕はなにを言われようが儀式モンスターを使います！
だって…初めて使って勝ったデッキですから！」

「…そうか！モンスター・エクシーズが流通してるけどくじけず頑張れよ！」

「はい！」

さてと…そろそろ帰らないと

「ああ！ちよつと待って！」

僕が店の入口らへんで進さんに声をかけられた

「そついえば聖君が使ってた 終焉の王 デミス なんだけど…どこで手に入れたんだい？」

「えつと…ゴミ箱」

「ゴミ箱お！？汚っ！ていうか儀式モンスターで最強クラスのデミスがなんでゴミ箱にあったの！？」

「あの…デミスってそんなに凄いんですか？」

「昔のI2社のトップだったペガサス会長が儀式モンスターの強化の為に作った伝説のカードだぞ！」

デミスってそんなに凄いカードだったんだ…！

ゴミ箱に入ってたからってつきり弱いのかと…

「あと他にもデュエリストの強運によってはフィールドを荒らしまくる 闇の支配者 ゴーク、次にあまりにも凶悪でなおかつ使用者はその力に溺れ周りからも孤立状態にし全てのデュエリストからデュエルモンスターの恥さらしとして嫌われた 神光の宣告者」

儀式モンスターにも強いものいるじゃないですか…

「そしてライフコストはキツイがあまりにも凶悪な効果で相手を終わりに導き一時期は制限カードにもなった 終焉の王 デミス だ」

「これが…制限カード」

「あまりにも凶悪なカードは良くて制限、最悪の場合は禁止カードだからね…」

「…デュエルモンスターズって奥深いですね」

「そう。あと最後に1つ。

…古いカードも新しいカードにも負けにくいくらい強い。これだけは忘れないでくれ」

「…はい」

その後、僕は進さんに別れの挨拶を言い静かに店を出た

- ハートランド 広場 -

「うわぁ…！ インヴェルズ・ローチ の時も多かつたけど此処も多いな」

ハートランドの広場では学校帰りに此処でデュエルをする人達が多くそれを観戦する人達もいた

僕は昨日D・ゲイナーを手に入れたばかりだったから観戦できなかつたけど

「リリーでダイレクトアタック！」

「メテオ・ドラゴン で はにわ に攻撃！」

色んなモンスターが戦ってるや…

ていつか相手を探さないと…

「おや…？あなたはこの前デミスとかいう儀式モンスターを使っていた…聖さんでしたっけ？」

突然僕の目の前に青い髪が特徴の中学生が話しかけてきた

「えっと…どこかであったっけ？」

「あの時 グレンザウルス で遊馬君を倒してたじゃないですか」

グレンザウルスで…？

- - - - -

「グレンザウルス でダイレクトアタック！」

「また負けたあああ！！！」

遊馬 LP2000 0

「遊馬君…。またですか」

- - - - -

「あの時の…！」

「はい。…おっと名前を言ってませんでしたね。

僕の名前は等々力孝ととろぎたかしです」

「えっと、僕は相沢聖あいはらひじり。よろしく」

「聖さんですか。…早速で失礼ですが スーパーバグマン を持つてないでしょうか？」

「スーパーバグマン？」

「はい。あつたから交換して欲しいのですが…」

デュエルを始めたばかりだから スーパーバグマンなんて知らないしなあ…どうしよう？

…そうだ

「ちょっと待ってて」

僕は広場の隅っこにあるごみ箱を漁り始めた

「…なにしてるんですか？」

「時々ごみ箱にカードが捨てられてるからもしかしたら スーパーバグマン があるかな〜って」

「ま、まるでゴキブリですね…。」

そんな都合良く「あつた！」「ええ!?!」

都合良くあるものなんだね…ホント

「まさか本当にあるとは…！っていうかごみ箱にあるってなんか悲しいんですが」

「まあとりあえずこれどうぞ」

僕は等々力君に スーパーバグマン を渡す

「いやあ〜。本当にありがとうございます」

「でもカードを捨てるなんて酷い事をするよね」

「全くです。まあ彼らにとっては スーパーバグマン は豚に真珠なのかもしれないが…。

…おっと交換の事を忘れてましたね。これなんてどうです？」

そういつて等々力君が出したのは トラップスタン だった

…って トラップスタン ！？

「あ、ありがとう！でも トラップスタン って高級なカードだよ？」

「構いません。欲しかった スーパーバグマン が今こうして手にはいったのですから…！」

そんなに スーパーバグマン が欲しかったんだね…

さてと…早速 トラップスタン をデッキに入れてと…

「まあこうしてデュエリスト同士があった時にすることといえば…」

えっ？

なにかあったっけ…？

…もしかしてデュエル？

「…デュエル？」

「その通りです！」

やっぱりデュエルだった

「ではいきますよ…！」

「あ…うん！」

「デュエルディスクセット！D・ゲイザーON！デュエルターゲ
ットロックオン！」

「デュエル！！！」

聖 LP4000 等々力 LP4000

「僕の先攻！ドロー！」

終末の騎士 を召喚です！」

終末の騎士 ATK1400 DEF1200

「終末の騎士の効果を発動！このカードが召喚、反転召喚、そして
特殊召喚に成功した時、デッキから闇属性モンスター1体を墓地に
送ります！僕は バグマンX を墓地に送ります！」

デッキからモンスターを墓地に？

…そういえば終末の騎士って弱小カードらしいけどテレビだと一部

のプロが使ってるんだよね

「カードを2枚伏せてターンを終了です！」

「僕のターン！ドロー！」

マンジュ・ゴッド を召喚！」

マンジュ・ゴッド ATK1400 DEF1000

僕の目の前に天使とは思えないモンスターが現れる

「マンジュ・ゴッドの効果発動！このカードが召喚、または反転召喚に成功した時、デッキから儀式モンスター、または儀式魔法を手札に加える！僕はデミスを加えるよ！」

よし！

これでデミスが出せる！

「手札から 奈落との契約 を発動！」

このカードは闇属性の儀式モンスターの儀式魔法！闇属性の儀式モンスターと同じレベル分フィールドまたは手札のモンスターを生贄に捧げる！」

「来ますか…！」

「手札のデミスを生贄に 終焉の王 デミス を儀式召喚！」

まさか1ターンで出せるとは思わなかった…！

「かかりましたね！この瞬間に罠発動！ 激流葬！」

「罠！？…ちなみに 激流葬 って？」

「このカードはモンスターが召喚、反転召喚、特殊召喚された時に発動可能！フィールドのモンスターを全て破壊します！」

「ええ！？」

全てのモンスターを破壊！？

「とどのつまり、罠カード版 ブラックホール です！」

突如現れた津波が全てを包み込みモンスター全てを破壊した

「…カードを1枚伏せてターン終了！」

デミスが破壊されたのは痛いけどあっちもモンスターは0！

なんとかなる筈…！

「僕のターン！ドロー！」

愚かな埋葬 を発動！デッキからモンスターを墓地に送ります！

僕は バグマン Y を墓地に送ります！」

またデッキからモンスターを…？

「フフフ…！今から墓地肥やしのメリットを見せてあげますよ！」

「墓地肥やし？」

「あなたがやった 高等儀式術 と 思い出のブランコ とのコンビみたいなのです！」

あゝあれかあ！

進さんに 高等儀式術 と 思い出のブランコ はコンボになるって聞いたけどそういう事か！

「ではいきますよ！畏発動！ リビングデッドの呼び声 ！この効果で 終末の騎士 を特殊召喚！」

また 終末の騎士 …まさか！

「 終末の騎士 の効果で バグマンZ をデッキから墓地に送ります！

そして…の前に手札から ダーク・アームド・ドラゴン を特殊召喚！」

ダーク・アームド・ドラゴン ATK2800 DEF1000

「ダーク・アームド・ドラゴン!？」

「このモンスターは墓地に存在する闇属性モンスターが3体のみの場合のみ特殊召喚が可能な強力カードです！」

(今 スーパーバグマン が手札にあります…仕方ないですね)

ダーク・アームド・ドラゴン の効果発動！墓地の闇属性モンスター1体を除外し相手フィールド上のカード1枚を破壊します！」

「しまった！」

炸裂装甲が！

「バトルです！2体のモンスターでダイレクトアタック！」

「うわああー！」

聖 LP4000 - 200

「僕の勝ちですね」

「っ、強い…」

ダーク・アームド・ドラゴン 強すぎるよ…

「まあ始めたばかりですし負けて強くなるのが人生ですよ。勝つばかりだと大切な事…つまり勝つ事の喜びを忘れてしまいますからね」

「勝つ事の喜び…？」

「勝つてばかりだと勝つのが当たり前になりいざ負けるとショックが大きいですからね」

…うん

確かにそうかも

「中学生の君がそういう難しい事を言えるとは…」

「中学生は2年が馬鹿で1年と3年は馬鹿ではありませんから」

「確かに…」

「うわあああ！！」

「！？」

今の悲鳴…どこかで？

「あの悲鳴は鉄男君か！」

僕達は悲鳴が聞こえた場所へ向かって行った

「アンティデュエルによりこのデッキは頂くぜ」

「あれは…シャーク！」

僕達が向かった場所には遊馬君と女子に悲鳴の主である鉄男君（等々力君いわく）

そして全国大会に出場していた神代凌牙かみしろりょうががいた…

第3話に続く…

第2話 叩かれる理由（後書き）

等々力孝から墓地肥やしを教わった聖

だがその直後に鉄男の悲鳴が聞こえる

急いで向かった2人が見たのは全国大会に出場していたシャークだ
った…

第3話 新たなる出会い

次回もお楽しみに！

第3話 新たなる出会い（前書き）

シャークさんが本気を出しました…

第3話 新たなる出会い

視点 聖

「あれは…シャーク！」

僕達の目の前には遊馬君と遊馬の友達らしき2人、そして全国大会に出たあの神代凌牙かみしろりょうが（+2人）がいた

「あれってあの神代凌牙君！？まさかこんな所で出会えるなんて…！」

「そんな悠長な事を言っている場合じゃないみたいですよ…？」

「えっ？」

よく見ると神代凌牙君かみしろりょうがは遊馬君の友達の1人のデッキを奪い取っていた

「シャーク！鉄男のデッキを返しやがれ！」

「これはアンティルールによる正式なデュエルで手に入れたデッキだ」

アンティルール…

それは互いが決めたカードを賭けてデュエルをするルール

勝ったプレイヤーは相手が賭けたカードを貰うことができる

昔バトルシティとかいう大会でアンティールールが採用されていたとか

…それにしてもデッキごと賭けるなんて…何故？

「だからってアンティールールは学校で禁止されてるわ！」

「そんなもん知らないな。そもそもこのデブはアンティールールを承知してデュエルをしていたんだぜ？」

「なんだって!？」

「シャークが俺のデッキを馬鹿にしてきて…それが悔しくてつい…」

彼らより少し遠くで話を聞いていたけど内容は少しだけわかった

彼らを助けたい…けど勝てない

初心者の僕が全国大会出場の神代…もうシャークでいいや

シャークに勝てるわけがない

デュエルをして遊馬君の友達のデッキを取り返してあげたい

だけど…初めて手に入れた大切デッキを取られたくないよ…

その後、遊馬君の大切な物がシャークにより壊され遊馬君は自分のデッキを賭けて明日デュエルをする事になった…

「ただ一瞬だけシャークが僕を見ていた気がするけど……気のせいかな？」

視点 シャーク

.....

「お前の兄貴って儀式使ってるんだって？」

「だっせえな。それに比べて相沢 の ットは凄いな！」

.....

胸糞わりい……！

元はと言えば糞兄貴のせいだ……！

「アイツが儀式なんてもん使ってたかったら俺は今頃不良なんてもんはしてなかった……！」

「シャークさん。今日もレアカード狩りをしますか？」

「……いや、今日は少し用事があるから帰ってる」

「あ、はい」

……行ったか

さてと…奴を潰しに行くか

例えド素人だろうがかんぱなきにまで叩き潰してやる！

視点 聖

「遅くなっちゃった…！」

あの後、僕は広場のごみ箱を探索していて夢中になっていたら夜になっ
ていた

そして今に至る

「まさか気づかない内に夜の7時になってたなんて…！」

早く帰らないと「その前に俺とデュエルをしてみらおうか？」！？」

僕が急いで帰っていると目の前にあのシャークが現れた

な、なんで…！？

「お前 インヴェルズ・ローチ を持つてるらしいな？」

「持つてるけど…なんで「アンティデュエルだ」ア、アンティ！？」

なんで僕にアンティを…いや、それよりもなんで僕が インヴェル
ズ・ローチ を持つてる事に…まさかカードシヨップにいたのか！？

「儀式なんてダサイもん使ってるお前に インヴェルズ・ローチ
はいらねーだろ？だからアンティしてもらっぜ！」

そう言った瞬間シャークは手錠がついたロープ（某警部が持つてる
奴のような物）を投げ僕の腕に着ける

「うわっ！？なにこれ！？」

「こいつはDチェンっていつてな。警察が犯罪者を捕まえる時に
逃がさないように作られた物だ」

なんでシャークがそんな物持つてるんだろつか…って考えてる場合
じゃない！

「ちなみに外すにはデュエルをする…それだけだ」

「うう…」

「いくぞ！」

「デュエルディスクセット！D・ゲイザーON！デュエルターゲ
ットロックオン！」

「デュエル！！」

聖 LP4000 シャーク LP4000

「先攻は俺からだ！ドロー！」

手札からフィールド魔法 伝説の都 アトランティス を発動！」

周りが海に沈んだ古代の都へと変わる

「フィールド魔法…?」

「フィールド魔法とは互いのプレイヤーに影響を与えるカード! まあ使ったプレイヤーにしか影響がないのもあるがな!」

「あ、説明ありがとう」

しかしアトランティスって一体なんなんだろう?

「ジェノサイドキングサーモン を召喚!」

ジェノサイドキングサーモン ATK 2400 DEF 1000

「攻撃力2400!?!」

「言い忘れてたがアトランティスの効果は手札及びフィールドの水属性モンスターのレベルを1つ下げ攻撃力と守備力を200ポイント上げる効果がある。」

ちなみに ジェノサイドキングサーモン の元々のレベルは5だ」

ジェノサイドキングサーモン ATK 2400 2600 DEF
1000 1200

「それってレベルが5なら生贄が必要ないって事!?!」

「そうだ。そしてカードを2枚伏せてターン終了だ」

いきなり攻撃力2600…!!

デミスがいれば効果で倒せるけど今はいない…！

「僕のターン！ドロー！」

ソニックバード を守備表示で召喚！」

ソニックバード ATK1400 DEF1000

「ソニックバード の効果発動！デッキから儀式魔法1枚を手札に加える！」

僕が加えたのは高等儀式術

あとは マンジュ・ゴッド かデミスがくれれば！

「カードを2枚伏せてターン終了！」

「俺のターン！ドロー！」

…てめえにだけ見せてやるぜ。俺の真の切り札をな！」

「真の切り札！？」

噂ではエアロ・シャークだけどエアロ・シャークが切り札じゃないの！？

「ジェノサイドキングサーモンを生贄に 超古深海王シーラカンスを召喚！」

超古深海王シーラカンス ATK2800 DEF2200

「アトランティスの効果で攻守アップだ！」

超古深海王シーラカンス ATK2800 3000 DEF2200 2400

「こ、攻撃力3000…!?!」

「更にシーラカンスの効果発動!手札1枚をコストにデッキからレベル4以下の魚族モンスターを可能な限り特殊召喚する!」

「可能な限りって…4体も!?!」

「そうだ!デッキからレインボー・フィッシュ2体、オイスターマイスター2体、そしてメタボ・シャークを特殊召喚!」

レインボー・フィッシュ ATK1800 2000 DEF800 1000

オイスターマイスター ATK1600 1800 DEF2000 400

メタボ・シャーク ATK1800 2000 DEF500 700

「モンスターが5体って…!?!」

「まあシーラカンスによって特殊召喚されたモンスターは攻撃宣言不可能な上に効果は無効にされるがな」

はあ…良かった

でももしたらなんでシーラカンスなんかを？

「レベル3のレインボー・フィッシュ2体でオーバーレイネットワークを構築！」

2体のレインボー・フィッシュの真ん中に異空間が現れレインボー・フィッシュが中に入る

「エクシーズ召喚！ 潜航母艦エアロ・シャーク！」

潜航母艦エアロ・シャーク ATK1900 DEF1000

遂に来た！エアロ・シャーク！

「アトランティスの効果で攻守はアップするがレベルは無い為攻守のみアップ！」

潜航母艦エアロ・シャーク ATK1900 2100 DEF1000 1200

「レベル2の オイスターマイスター 2体でオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！ ガチガチガンテツ！」

ガチガチガンテツ ATK500 DEF1800

「ガチガチガンテツ の効果発動！このカードが存在する限り、このカードに乗っているエクシーズ素材1枚につきフィールド上のモンスターの攻守が200ポイントアップする！」

超古深海王シーラカンス ATK3000 3400 DEF24

00 2800

メタボ・シャーク ATK2000 2400 DEF700 1
100

潜航母艦エアロ・シャーク ATK2100 2500 DEF1
200 1600

ガチガチガンテツ ATK500 900 DEF1800 22
00

「こんなのって…有り得ない…！」

「コレがエクシーズ召喚と儀式召喚との差だ！まずはエアロ・シャークでその鳥を攻撃！」

エアロ・シャークの魚雷が ソニックバード に直撃し破壊される

「そしてシーラカンスでダイレクトアタック！」

「うわあああ…！」

聖 LP4000 600

「ターン終了するぜ。さあ、サレンダーするなら今のうちだぜ？」

「うう…！」

駄目だ…

ライフが2000以下じゃデミスが使えない…！

もう勝てないよ…

「ぼ、僕のターン…！ドロー！」

勝てないとわかっていてもドローする

もしかしたら逆転のカードを引けるかなと思って…だけど

「そんな…！今来るなんて…！」

僕が引いたのだデミス…今引いても意味の無いカードだった

「どうした？サレンダーか？」

「……………」

「どうやら引いたカードはデミスかなんかだろう？」

「！？」

な、なんで…！？

「儀式なんてもんを使うからそうなるんだ。肝心な時に来る使えないカード。それが儀式だ…！」

使えないカード…

「さあ、サレンダーしろ！」

「…サ、サレ」

-. - . - . - . - . - .

「…僕はなにを言われようが儀式モンスターを使います！
だって…初めて使って勝ったデッキですから！」

「…そうか！モンスター・エクシーズが流通してるけどくじけず頑
張れよ！」

「はい！」

-. - . - . - . - . - .

「そうだ…！」

進さんが言っていた

エクシーズが流通していてもくじけるなって…！」

「…やっぱりサレンダーはしない！」

「なに！？」

「たとえエクシーズが流通していようが僕は儀式を使い続ける！」

「コイツ…！だがこの状況で勝てるんでも思ってたのか！」

確かにこの状況で勝てる方法なんて…いや、伏せたあのカードなら

…いけるかも？

「…伏せていた 無謀な欲張り 2枚を発動！ドローフェイズを2ターンスキップする代わりに2枚ドローする！」

これでカードが引けなかつたら負ける

だけど僕は勝つ！

「ドロー！」

…デミスに 神秘の中華鍋 に 思い出のブランコ、そして 死者蘇生 …よし！

「手札から 高等儀式術 を発動！手札の儀式モンスターを選択し 選択したモンスターのレベルの合計分デッキの通常モンスターを生贄に捧げる事で儀式召喚する！」

（なに？今更デミスを出すだと？俺の伏せはリビングデッドにPOSE イドンウェーブ。

…防げないが出されても困るまい）

「僕はデッキからレベル8のゴギガ・ガガギゴを生贄に 終焉の王

デミス を儀式召喚！」

終焉の王 デミス ATK2400 DEF2000

なんだろう…？

今デミスのカードが光った気がしたけど…気のせいかな？

「今更デミスを出してどうする気だ！」

「それはこれの為だ！手札から思い出のブランコを発動！ゴギガ・ガガギゴを蘇生！」

ゴギガ・ガガギゴ ATK 2950 3150 DFF 3000

「そして 神秘の中華鍋 を発動！」

「 神秘の中華鍋 だと！？」

「 神秘の中華鍋 の効果は自分フィールド上のモンスターの攻撃力か守備力を選択し生贄に捧げる。選択した能力の数値分ライフが回復する！

僕は攻撃力を選択する！」

聖 LP 600 3750

「ライフが回復しやがったか…！」

「そしてデミスの効果発動！ライフを2000払いデミス以外のフィールドを破壊！」

聖 LP 3750 1750

デミスの斧から放たれる衝撃波が全てを破壊する…が

「… ガチガチガンテツ だけ残ってる！？」

「 ガチガチガンテツ はエクシーズ素材1枚を取り除く事で破壊

を免れる！」

ガチガチガンテツ ATK 900 700 DEF 2200 2000

「だったら手札から 死者蘇生 を発動！ ゴギガ・ガガギゴを蘇生！」

なんとかフィールドは逆転できた！けどまだだ！

「手札からごみ箱から拾った 精神操作 を発動！」

「精神操作 だと！？なんでド素人のお前がそんなレアカードを！？」

精神操作 ってレアカードだったの！？

ごみ箱にあったからいらぬカードかと思ってた

…入れてる僕もあれだけど

「このカードは1ターンのみ相手モンスターのコントロールを奪う事ができる！勿論 ガチガチガンテツ だ！」

ガチガチガンテツ の真上に操り人形を操る紐が現れ ガチガチガンテツ を僕のフィールド上に引き寄せた

終焉の王 デミス ATK 2400 2600 DEF 2000
2200

ゴギガ・ガガギゴ ATK2950 3150 DFF2800
3000

「俺が負ける…だと!？」

「バトル! 2体のモンスターでダイレクトアタック!

「ぐわああああ!?!」

シャーク LP4000 - 1750

「勝った…? ド素人の僕があのでシャークに勝った…?」

「なんでだ…? なんで儀式なんてダサイシリーズに…くそっ!」

シャークはそう言い逃げるようにその場を立ち去った

「あつ、行っちゃった…? ってこれ外してから行ってよ!?!」

なんでシャークのだけ外れてるの!?!

これおかしくない!?!

「ほお? 外れんのか?」

「あ、はい。できれば外してくれませんか?」

「いいだろう」

僕の腕についたDチェーンは斧のひとふりで碎け散った…? って斧!?!

ていうか僕は誰と話してるんだ!?

「あ、ありがとう…の前に誰!？」

『気がつかんか？我はデミス。終焉の王 デミス だ』

「…えっ!？」

そう

僕の目の前にはあの 終焉の王 デミス がいた

…なんで!？

第4話に続く…

第3話 新たなる出会い（後書き）

デミス『命令だ。次回予告をせよ』

聖「あ、はい！（持ち主は僕なのに…）」

シャークに勝った僕の前に現れたのはあの 終焉の王 デミス だった

何故彼が存在しているのかは本人にもわからないようだ

そして数日後

街中が停電やオボットの暴走、交通の渋滞によりパニックに陥る

そして次の日僕は遊馬君達と一緒に事件の真相を突き止めていく…！

第4話 バグマン大量発生！

次回もお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7187z/>

遊戯王ZEXAL 時代遅れのデュエリスト

2012年1月5日01時54分発行